

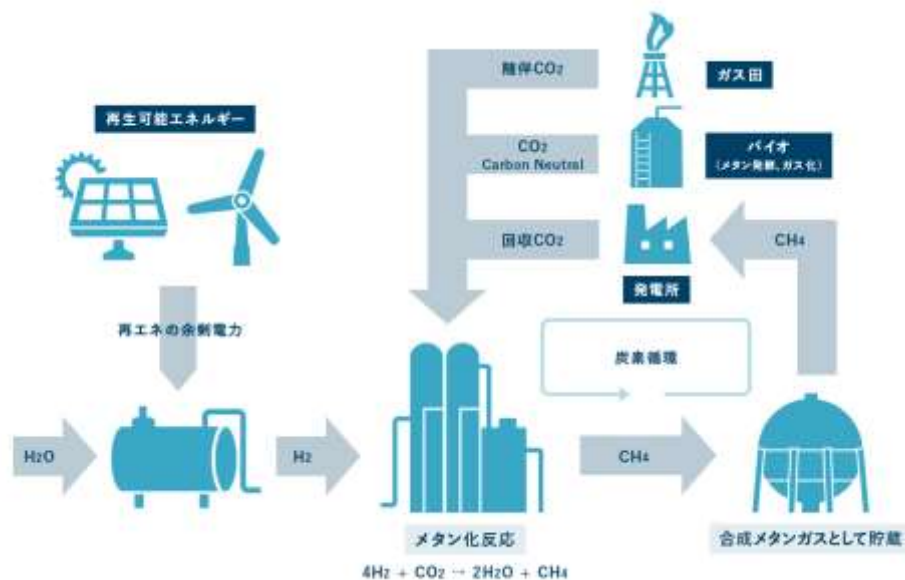
## メタネーション技術ロードマップの策定

CCR 研究会では、政策ワーキンググループ（政策 WG）を設置し、本研究会が提案する CCR 技術のうち、水素と二酸化炭素からメタンガスを合成するメタン化反応技術（以下、「メタネーション技術」という）を対象に、国の政策動向ならびに各水素キャリアの技術開発動向等を踏まえ、今後のメタネーション技術に関するロードマップを策定しました。

### ■ 合成メタン利用の特徴

メタネーションによる合成メタンは、輸送・貯蔵・利用のインフラを新設することなく、都市ガスパイプラインなどの **既設インフラを有効活用できるため、社会導入に当たって追加投資を大幅に低減**することができます。

また、国内製造の場合だけでなく、海外でメタネーションを行う場合においても、**既存の LNG サプライチェーンを活用することが出来ます。**



### ■ メタネーション技術ロードマップ

製造プラントの規模を踏まえ、技術開発、実証、商用化目途のメタネーション技術ロードマップを策定しました。

		2020年	2025年	2030年	2040年	2050年
小容量	1,000Nm <sup>3</sup> /h以下	技術開発	実証	商用化/建設検討		
大容量	1,000Nm <sup>3</sup> /h超		技術開発	実証	商用化/建設検討	

注) 年間製造量 800 万 m<sup>3</sup> (稼働 8,000 時間/年) は、一般家庭約 3 万戸分の年間使用量に相当します。